

がしないでもないが。

本邦産 *Caelotes* 属の蜘蛛には上記 *C. exitialis* の他に *C. Moellendorffi* (Karsch, 1881) 及 *C. carafensis* Kishida 1924 の二種がある。前者は九州に後者は樺太に分布して居る。又 *Coras luctuosus* イホグモ及び *Coras insidiosus* シモフリイホグモの二種もヤチグモと同時に L. Koch 氏に依り *Caelotes* 属の新種として發表されたものであるが、今では多くの學者は *Caelotes* を用ひずに *Coras* 属に編入して居る。尙亦 *Caelotes* を *Coelotes* と書いた文献が多いやうであるが、これは前者の方が正しいのである。

採筆するに當り種々御教示賜つた岸田先生に感謝の意を表する。

(昭和11年5月5日認む。)

Fukui, T.- Something about the mite endoparasitic on pigeon.

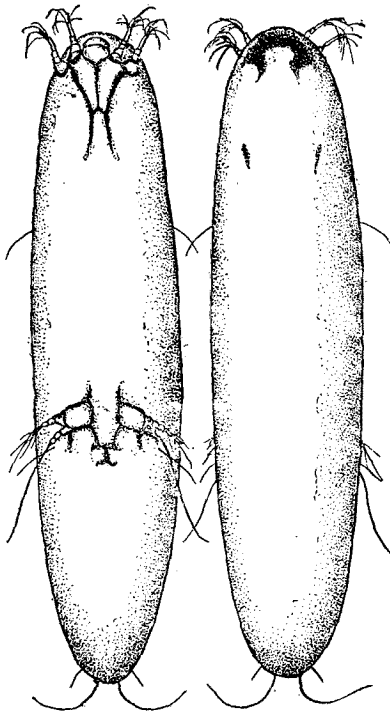
ハトの體內に見出したダニ

理學博士 福 井 玉 夫

東京市小石川區原町二七

〔昭和十一年五月三十日受領〕

學校で形態學の實習にハトの解剖をやらせて居た時、學生の一人戸石あや子さんが材料の心臓、大動脈及びこれと向ひ合つた胸腔内壁に多數の白色小桿状のものを見出してこれは何かと聞きました。見ますとダニ歩蟎で私は初めて見たので大變面白く思つて早速此の類の専門家岸田久吉兄に御尋ねしましたとこ

*T. rostratus* (Buchholz)

ろ *Taleculifer* だらうとの事でした。同氏は己に何年か前にハトの皮下から見出された材料について圖も描かれてありましたので、早速文献と共に拜借して見ると同じものである事がわかりました。文献を見ると歐米では古くから知られて居るもので珍らしい事實ではなく胸腺から多數見出されると記されてあり又養鳩の本等を見ても名が記してありました。決定的の同定は困難でしたが *T. rostratus* (Buchholz) と思ひます。本邦では未だ發表せられてゐないやうですから去る 4 月 2 日の日本寄生蟲學會に報告して置きました。その記事には圖がありませんから此處に圖と共に重ねて記して置きます。實物は長さ 1 ミリ位の白色のもので、圖に黒く描いた所が褐色を呈して居ります。

第一回蜘蛛採集會

来る七月五日(日曜日)天覽山に於て第一回の蜘蛛採集會を開催します。當日は昆蟲趣味の會と共同して行ひます。午前八時武蔵野線池袋驛出發に就き十分位前に集つて下さい。往復一圓二十錢。雨天の際は次の日曜日(12日)に延期します。會として蜘蛛の採集を試みる事は恐らく日本では初めての事だと思ひます。最も多くの蜘蛛が成熟する絶好の時季です。奮つて御参加下さつて第一回の採集會を賑かにして下さい。